

## 和光市総合振興計画審議会第4回会議（安心部会）会議要旨

開催日：平成27年8月10日（月）午後2時00分～3時40分

開催場所：議事堂3階第2委員会室

出席者：荒木保敏部会長、野宗玲子委員、花輪宗命会長、鷹咲子委員、宍戸博委員、  
松永靖恵委員、板垣隆夫委員

欠席者：森田圭子委員、山田智好委員、深野威委員

事務局：川辺課長、前島補佐、工藤主査、遠藤主事

傍聴者：2名

次第：1 開会

2 議事

(1) 市民意識調査結果報告

(2) 総合振興計画基本構想中間見直しに反映させる事項について

3 その他

4 閉会

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 市民意識調査結果報告

事務局より、資料1「和光市民意識調査結果」、資料2「和光市民意識調査」に基づいて説明。

荒木部会長：市民意識調査の結果について、質問等はございますか。

花輪会長：「1 住みやすさ」、「2 市への継続居住意向」について地域別、年代別に記載があり、その中に参考値という記載がありますが、これはどういう意味ですか。この地域では調査しなかったということでしょうか。

事務局：調査しなかったということではなく、該当地域、年代の回答数が少ないため参考値として記載しています。例えば、「2 市への継続居住意向」の10代については、「n = 9」と記載していますが、10代の回答数が9件であったということを表しています。

荒木部会長：その他に質問等はございますか。それでは、次の議事に進みます。

#### (2) 総合振興計画基本構想中間見直しに反映させる事項について

##### ア 和光市の特徴（修正案）

項目「(4) 市民の多くは、住みよく、これからも住み続けたいと感じている」について

事務局より、資料3「和光市の特徴（修正案）抜粋」表面に基づいて説明。

荒木部会長：修正案の記載内容やグラフの見せ方等について、ご意見がありましたらお願いします。

鷹委員：円グラフについては「住みやすさ」、「定住意向」というタイトルがそれぞれ入っ

ていますが、棒グラフのタイトルもある方がいいと思います。今までも記載していないようですが。これは市民意識調査問6「和光市に魅力や誇りを感じることに」に対応しているという理解でよろしいでしょうか。

事務局： 市民意識調査問4「和光市に住み続けたいと思う主な理由」に対応しています。

鷹委員： それをタイトルとして記載した方が分かりやすいと思います。

事務局： 承知しました。

荒木部会長： その他にご意見はございますか。

花輪会長： 今のグラフですが、資料1「和光市民意識調査結果」では回答数が多い順に並べているにもかかわらず、資料3「和光市の特徴（修正案）抜粋」ではそのようになっています。例えば、一番多い「交通の便」については、真ん中に入っています。資料1のように回答数が多い順にした方が分かりやすいと思います。

荒木部会長： 資料3は、円グラフも棒グラフについても、表記は多分設問順になっていると思いますが、資料1では回答数が多い順の棒グラフ・円グラフになっているのでしょうか。

鷹委員： 円グラフはこのままでいいのではないかと思います、棒グラフは回答数が多い順に並べるべきではないかと思います。

荒木部会長： それでは、棒グラフについて、回答数が多い順に表記するように、修正をお願いします。

その他に質問等はございますか。それでは、次に進みます。

## イ 和光市の特徴（修正案）

### 項目「(6) 市が重点プランとして掲げた施策に対する市民の意識」について

事務局より、資料3「和光市の特徴（修正案）抜粋」裏面に基づいて説明。

荒木部会長： 資料3裏面「(6) 市が重点プランとして掲げた施策に対する市民の意識」について、ご意見がありましたらお願いします。

板垣委員： マトリクス表の左下に位置する、満足度が低く重要度も低い施策についても、何か言及する必要があるのではないかと思います。その問題について地域間でばらつきがあり、市全体で平均すると重要度は低くなるが、特定の地域では結構不満が多いというものがあるのではないかと。和光市の問題は地域間格差があることではないかと思っています。例えば、全体の交通の便はいいが、特定の地域では交通の便に対する不満が高いということがあると。そうした問題も何らかの形で言及したほうがいいのではないかと。策定時に重要度が低い項目はコメントを記載していないため、あえて言及しないという考え方もありますが、和光市の地域的な格差の問題を念頭に置くというのは、重要なことだと思います。

荒木部会長： 満足度が低く重要度も低いものについて、地域格差があるということを言及する必要があるというご意見ですが、事務局、いかがでしょうか。

事務局： 資料1「和光市民意識調査結果」には年齢別、地域別に記載している項目もありますが、ご指摘のとおり、このページの中に明記はしておりません。地域別の話となると母数が少ないため、参考値となってしまう地域もあります。

板垣委員： 駅北口周辺の開発も、地域格差の表れだと思しますので、何らかの形で言及すべきだと思います。意識調査票の最後にある自由記述欄の回答を読むと、市内全体の平均では重要度は低くなるが、特定地域での重要度は高い問題について、様々な要望、不満が記述されています。

荒木部会長： 事務局で精査してもらおうということでもよろしいでしょうか。

事務局： 内容を確認し、地域格差を記載することについて検討いたします。

荒木部会長： その他に質問等はございますか。それでは、次に進みます。

## ウ 市民意識調査の結果を使用している施策等一覧

事務局より、資料4「市民意識調査の結果を使用している施策等一覧」に基づいて説明。

### 施策22「生涯学習支援の推進」

荒木部会長： 資料4については、合計13施策ありますので、1つずつ進めていきたいと思えます。まず、事務局に確認しますが、平成27年度市民意識調査の結果の反映については、現在、所管課において施策内容修正シートの見直しを行っているとのことでもよろしいでしょうか。

事務局： はい、現在、所管課において見直しを行っております。部会として、平成27年度市民意識調査結果を受けて、新たな視点やアドバイスなどがございましたら、ご意見をお願いします。

荒木部会長： それでは、施策22「生涯学習支援の推進」について、ご意見がありましたらお願いします。

鷹委員： 今後、所管課が修正した施策内容修正シートを確認する機会はあるのでしょうか。所管課において、この市民意識調査の差や変化を全て織り込んでいただけるなら、それでいいと思うのですが。

板垣委員： 第1回、第2回会議で審議した施策内容修正シートに、この市民意識調査の結果は織り込まれていたのでしょうか。

事務局： その時点では市民意識調査の結果は出ていないため、反映しておりません。

板垣委員： つまりこの結果を各課がどう受け止めているかについては、まだ作業中に出てきていないということですね。

事務局： はい、そのとおりです。

荒木部会長： 少し分かりにくいですがけれども、市民意識調査の結果をご覧いただき、ご意見ありましたらお願いします。

野宗委員： 平成21年度の市民意識調査結果では、「生涯学習施策が重要と考える市民は4.7%であり、他施策と比較すると重要度は低い」とありますが、平成27年度の市民意識調査結果では、「公民館や図書館などの生涯学習施設を整備するなどし、市民の主体的・自主的な学習支援活動をすることについて」の重要度は58.6%となっており、大幅に数値が変わっています。ここまで変わるというのは、多分質問が違うのではないかと思います。前回の調査票を確認することは可能でしょうか。

事務局： この場でお渡しできる資料は準備しておりませんが、備考欄に説明を記載して

います。平成24年度、平成27年度は単独で生涯学習活動を支援することについて重要だと思いませんか、と質問しています。一方で、平成21年度は重点項目36項目の中から3項目を選択していただいています。つまり、平成24年度から質問そのものを変えて、その項目ごとに重要だと思いませんかと質問しています。質問が同じ平成24年度と平成27年度の結果を比較していただき、平成24年度の48.8%から平成27年度の58.6%に若干重要度は上がってきているという見方をしていただければと思います。

荒木部会長： 平成21年度と平成27年度は質問が違うため、比較できない。ただし、平成24年度と平成27年度を比較すると、48.8%から58.6%と上向きになっているということですね。

宍戸委員： 施策22「生涯学習支援の推進」、平成27年度市民意識調査の設問では、「公民館や図書館などの生涯学習施設を整備するなどし、市民の主体的・自主的な学習支援活動をすることについて」としているため、公民館などの施設を整備してほしいから重要と回答する人がいるのではないかと思います。一方で、施策23「充実した生涯学習機会の提供」では、「市民大学講座、各公民館講座などの生涯学習・社会教育の機会を提供することについて」としているため、生涯学習の機会について重点を置いているように思います。施策22の市民意識調査は、公民館や図書館を整備することに対する重要度だと考えると、どのように整理して理解すればいいのか、難しいですね。

鷹委員： ご指摘のとおり、策定時の4.7%という記述をどのように書き換えるのか、難しいですね。

荒木部会長： そもそも質問の内容が違いますから、比較することはできないと思います。

鷹委員： そのとおりだと思います。しかし、見直し作業では施策の現状を書き換える必要があるのではないですか。

事務局： 施策の策定時の現状はそのまま残し、その下に新たに平成27年度の現状を付け加える予定です。また、市民意識調査結果を利用している指標についても最新値にしていきます。

鷹委員： 今ここでそのシートを見た方が審議しやすいと思うのですが、結果だけ提示されてもコメントするのは難しいです。

板垣委員： 見直し方法について確認ですが、先ほどの資料3「和光市の特徴（修正案）抜粋」では取り消し線の部分を削除して新しい文章にするという提案でしたが、施策については元の現状は残して、新しい現状を付け加えるということですか。

事務局： はい、そのとおりです。

板垣委員： 最終的に基本構想中間見直しという形で冊子となるにもかかわらず、施策の現状のみ策定時のものを残すということですか。

事務局： はい。基本構想の冊子をご覧いただきたいのですが、資料3「和光市の特徴（修正案）抜粋」は、第1部「第四次和光市総合振興計画の策定に当たって」という前半部分でございます。この部分は書き直しという形で見直しを行います。それに対して、第1回、第2回会議でご審議いただいた各施策内容修正シートに関しては、策定時の現状はそのまま残します。下に平成27年度の現状を併記し、策

定時と比較して現状がどのように変わっているのかを記載します。

板垣委員：書き方が違うということですね。流れから言うと、新しい市民意識調査の結果に基づく所管課の修正案が出てきて、我々が議論するというのが筋だと思います。それをこういう順番にしたのは何か理由があるのでしょうか。

事務局：現在、第1回、第2回会議でいただいた審議会の意見を所管課にフィードバックし、併せて市民意識調査の結果について加えるという作業をしております。施策内容修正シートについては、第1回、第2回会議でご確認いただいておりますが、その段階のシートは市民意識調査結果が反映されていないものであったため、審議会には本日、結果をご報告しました。結果をご覧いただき、新たな視点やアドバイスがございましたらご意見としていただきたいと思います。ただし、特に状況の変化がないものもございまして、ご意見がなければ、「意見なし」としていただいて構いません。

荒木部会長：板垣委員がおっしゃるように、所管課が市民意識調査結果を反映させた施策内容修正シートが提示されないと、審議するのは難しいです。

鷹委員：難しいです。判断する材料、要するに修正した施策内容修正シートが手元にないため審議はできません。

荒木部会長：第1回、第2回会議で施策内容修正シートは確認しておりますが、市民意識調査結果は反映されていなかった。

鷹委員：市民意識調査結果がきちんと施策内容修正シートに反映されるのなら問題ありませんが、最終的な完成文書を確認する機会が必要ですね。

荒木部会長：それでは、もう一度安心部会を開催していただけますか。民意調査結果を反映させた施策内容修正シートについて確認する必要があります。

鷹委員：書面として送っていただいて、回答するという方法はいかがでしょうか。

荒木部会長：もう一度部会を開催するか、書面で意見を提出するか、ここで決めたいと思います。先に所管課から提出された市民意識調査結果を反映させた施策内容修正シートについて意見を出すならいいのですが、部会で意見を出して、また所管課から出されてもう一回出すというと、同じこと2回やる作業になるので無駄です。

事務局：それでは、市民意識調査結果を反映させた施策内容修正シートを送付し、書面でご意見をいただくという対応でいかがでしょうか。

荒木部会長：そのような対応をお願いします。

宍戸委員：施策22「生涯学習支援の推進」の市民意識調査結果は重要度58.6%で、資料1「和光市民意識調査結果」を参照すると、まあ満足を含めて約40%が満足されています。不満が12.7%あるにしても、本施策としてはそれなりに評価されていると理解すれば、これまで所管課が出されている課題や施策指標について特にここで強いコメントをすところまではいかないのではないかと思います。所管課においては計画に従って引き続き推進していただければと思います。

荒木部会長：施策22については宍戸委員のコメントでまとめたいと思います。本日の部会では、宍戸委員のご意見のようなアドバイスなどをコメントしていきたいと思います。資料4にある施策について、一通り確認しますのでご協力をお願いします。

### 施策 23 「充実した生涯学習機会の提供」

荒木部会長： 施策 23 「充実した生涯学習機会の提供」の満足度については、平成 21 年度と平成 27 年度の結果に大差はありません。現状を維持しているということですが、本施策についてご意見はありますか。

鷹 委 員： 策定時の平成 27 年度目標は 33.0% という数字を掲げています。策定時の約 22% から現状維持ということは、進捗としてはよくないのではないかと思います。それを所管課がきちんと認識していただければいいと思います。

荒木部会長： 鷹委員からお話がありましたように、満足度を上げていく目標であるにもかかわらず、状況は横ばいということで、目標値に届いていないということですね。それでは、次の施策に進みます。

### 施策 25 「歴史的文化資源の保護・活用の推進」

荒木部会長： 施策 25 「歴史的文化資源の保護・活用の推進」については、市に魅力や誇りを感じる場所という質問に対し、「歴史的資源、文化財などの和光市の個性を伝える資源」が第 10 位という結果になっています。このことを踏まえ、何かご意見はありますか。

特に意見を出すのは難しいと思いますので、本施策については、意見なしとして次の施策に進みます。

### 施策 26 「創造的な文化の振興」

荒木部会長： 施策 26 「創造的な文化の振興」については、満足度が平成 21 年度約 19% から平成 27 年度約 21% となっています。何かご意見はございますか。

鷹 委 員： 策定時の平成 27 年度目標は 25.6% であったので、目標までもう少しですね。

荒木部会長： 策定時の目標に対してどのように進捗しているか、という点についても記載してほしいと思います。それでは、次の施策に進みます。

### 施策 28 「スポーツ・レクリエーションの活動の推進」

荒木部会長： 施策 28 「スポーツ・レクリエーションの活動の推進」について、ご意見はございますか。

板垣委員： 現状の欄に「満足度は 9.5% で、施策全体の平均値を若干上回っています」とありますが、先ほど確認した施策の満足度と比較すると、9.5% で平均を上回ることはないため、この満足度は今までの施策と意味が違うのではないかと思います。9.5% という数値は、満足と回答した人から不満と回答した人を差し引いた数値ではないかと思いますが、満足度と混在してしまっているのではないのでしょうか。

荒木部会長： 板垣委員のご指摘のとおりです。

また、平成 21 年度と平成 27 年度の調査内容が違いますので、所管課から提出された施策内容修正シートを確認していただき、改めて意見があれば出してい

ただきたいと思います。それでは、次の施策に進みます。

### 施策30「男女共同参画社会の実現」

荒木部会長： 施策30「男女共同参画社会の実現」については、社会全体で男女の地位が平等になっていると考える人の割合が12.6%から21.8%に上昇しているということです。備考欄に「H26和光市男女共同参画意識調査」とありますが、どういう意味でしょうか。

鷹委員： 平成26年度和光市男女共同参画意識調査結果で社会全体で男女の地位が平等になっていると考える人の割合が21.8%になったということだと思います。

事務局： そのとおりです。その他の施策は市民意識調査結果を使用していますが、本施策は和光市男女共同参画意識調査を使用しています。

鷹委員： 数値は上がっていますが、策定時の平成27年度目標は30.0%であることを考慮すると、目標を達成するのは難しいですね。

荒木部会長： それでは、施策30については、策定時と比較して調査結果は上がっていますが、目標値の達成は難しいという点を考慮し、現状を見直すように意見したいと思います。それでは、次の施策に進みます。

### 施策32「多様な保育サービスの推進」

荒木部会長： 施策32「多様な保育サービスの推進」について、ご意見はございますか。

鷹委員： 施策指標となっている市民意識調査について、平成21年度は「子育て環境が十分である」であるのに対し、平成27年度は「待機児童の解消などを図り、安心して子どもを預けられる子育て環境を充実させる」という聞き方になっており、ちょっと違うと思うのですが、いかがでしょうか。

野宗委員： 待機児童が減っていないという現状を考えると、待機児童という文言があることによって受ける影響が大きいと思います。他にも様々な子育て環境の課題が色々あると思いますが、やはり和光市の待機児童の問題の方が大きくなっていくことを考慮すると、この数値を上げていくのは厳しい状況だと思います。

花輪会長： 和光市は待機児童対策について頑張っておられると思いますが。

荒木部会長： 保育園の数を増やして環境を整えても、そのような自治体には子育て世帯が転入してくるため、結果として待機児童の数は減らないという状況になっています。

野宗委員： 共稼ぎの世帯も増えていることも一因だと思います。

鷹委員： さらに、交通の便がよいので、転入してくる子育て世帯も多くなるということになります。

花輪会長： なるほど。先ほど参照した重要度と満足度のマトリックスでは、本施策は重要度は高いのですが、満足度は平均以下で低いという結果でした。その点も考慮しなければいけないと思います。

宍戸委員： 質問が平成21年度と違うため、比較はできませんが、現在の満足度が2割程度であることを考えると、引き続き頑張ってくださいというコメントでいいのではないかと思います。

鷹委員： 本施策は重点プランとなっており、市民意識調査結果も指標とされているため、

どのように調査していくかは大事なことだと思います。変えてしまうということは、指標の達成度の管理が困難となる恐れがあります。平成21年度は具体的にはどのような聞き方をされたのでしょうか。

事務局：平成21年度は保健・福祉・医療分野の中に6項目を挙げ、その中の1項目として「子育て環境が整っている」という項目があり、「満足」・「まあ満足」「どちらともいえない」・「やや不満」・「不満」・「わからない」の5段階で満足度を回答していただきました。

鷹委員：子育て環境が整っているかどうかを5段階で聞き、上2つの選択肢「満足」と「まあ満足」と回答した人の合計が21.8%ということですね。

事務局：失礼しました。5段階ではなく6段階です。訂正します。

鷹委員：上2つの選択肢「満足」と「まあ満足」と回答した人の合計というのは同じですね。分かりました。

資料には平成24年度についての記載がありませんが、調査されたのでしょうか。調査されたのであれば、どのような聞き方だったのでしょうか。

事務局：平成24年度と平成27年度の質問は同じで、「待機児童の解消などを図り、安心して子どもを預けられる子育て環境を充実させる」ことについて満足度を回答していただくものです。

鷹委員：平成24年度の満足度は何%ですか。

事務局：32.6%です。

鷹委員：平成21年度の21.8%と平成27年度の20.9%と比較すると極端に高いですね。その数字は正確な値ですか。

花輪会長：高過ぎるのではないのでしょうか。

荒木部会長：策定時の平成27年度目標である32.0%を達成しているということでしょうか。

板垣委員：それは間違いだと思います。32.6%というのは、「わからない」と無回答を母数から除いた場合の「満足」と「まあ満足」と回答した人の割合ではないかと思えます。

花輪会長：やはり基準が違うのですね。おかしいと思いました。

鷹委員：指標と同じ基準で算出した平成24年度の数値は確認できますか。

板垣委員：「満足」と「まあ満足」を足して、20.7%となります。

荒木部会長：2割程度ということは、他の年と比較しても大きな変化はないということですね。

鷹委員：納得しました。ありがとうございました。

荒木部会長：本施策についてはこの程度でよろしいでしょうか。それでは、次の施策に進みます。

### 施策39「チャレンジドが安心できる障害福祉の推進」

荒木部会長：施策39「チャレンジドが安心できる障害福祉の推進」の施策指標としている障害福祉に関する満足度については、平成21年度12.3%に対して、平成27年度22.7%と増加しています。目標値はどのようになっていたのでしょうか



か。

鷹 委 員： 策定時の平成27年度目標値は20.7%です。

荒木部会長： 施策39については、目標に掲げたとおり進捗しているということですので、その他の意見はよろしいでしょうか。それでは、次の施策に進みます。

#### **施策45「地域との連携による保健・医療体制の推進」**

荒木部会長： 施策45「地域との連携による保健・医療体制の推進」の施策指標としている保健医療サービスに関する満足度については、平成27年度35.0%となっています。既に平成32年度目標値である30.0%を上回っています。

鷹 委 員： 既に平成32年度目標を達成しているということは、そのままでは目標にならないということですね。

荒木部会長： それでは、施策45については平成32年度目標値を見直していただきたいと思います。それでは、次の施策に進みます。

#### **施策50「コミュニティづくりの推進」**

荒木部会長： 施策50「コミュニティづくりの推進」の施策指標としているコミュニティ活動の充実に関する満足度については、平成27年度30.3%となっており、平成21年度36.5%と比較すると下がっています。自治会の加入者数も変わっている可能性があります。何かご意見はございますか。

花 輪 会 長： 満足度が下がるというのはよくない状態なので、何か対策をしていただきたいと思います。

荒木部会長： 自治会の加入促進も含めて、コミュニティづくりの推進についてはテコ入れが必要ということでまとめたいと思います。それでは、次の施策に進みます。

#### **施策66「協働型社会の構築」**

荒木部会長： 施策66「協働型社会の構築」の施策指標としている市民と行政の協働の充実に関する満足度については、平成21年度は10.0%であったのに対し、平成27年度は23.8%と増加しています。平成32年度目標値は20.0%ですので、施策45と同様に目標値を見直していただきたいと思います。

その他にご意見はございますか。それでは、次の施策に進みます。

#### **施策68「さまざまな連携によるまちづくりの推進」**

荒木部会長： 施策68「さまざまな連携によるまちづくりの推進」について、何かご意見はございますか。

花 輪 会 長： 指標とされている「地元の企業や公共研究機関との交流にかかわったことがある人」というのは、例えば理化学研究所の一般公開のようなイベントに参加するというイメージでしょうか。

荒木部会長： そうですね。

花 輪 会 長： 数値が平成21年度15.7%から平成27年度11.7%に下がっているということについては、どのように捉えればよろしいのでしょうか。

事務局：平成21年度の調査では「地元の企業や公共研究機関との交流にかかわったことがありますか」という単独の設問としましたが、平成24年度・平成27年度の調査では「市政に関するあなたの経験について」7項目から、〇はいくつでも、選択する設問としました。そのため、平成21年度と平成27年度を単純に比較することはできません。

宍戸委員：平成21年度の単独の設問では、市政に関するというタイトルで質問されているのでしょうか。

事務局：平成21年度は産業というカテゴリで聞いています。

鷹委員：平成21年度の回答の選択肢は、あるか、ないか2つだけでしょうか。

事務局：そのとおりです。

鷹委員：2択であれば、平成24年度と平成27年度の7項目から選択する方法とそれほど差はないように思いますが、いかがでしょうか。

荒木部会長：聞き方を変えてしまっているので比較はできないと思います。

鷹委員：今更ですが、施策指標として掲げている以上、設問を変えるかどうか検討すべきだったのではないのでしょうか。

事務局：ご指摘のとおりです。今回は平成24年度との継続性を考えて平成24年度と同様の質問にしましたが、平成21年度との関係についても検討する必要がありました。

荒木部会長：意識調査については、平成21年度・平成24年度・平成27年度の設問を整理していただき、今後について検討していただきたいと思います。それでは、次の施策に進みます。

### 施策70「効果的・効率的な行政サービスの提供」

荒木部会長：最後に、施策70「効果的・効率的な行政サービスの提供」について、何かご意見はございますか。

行政改革に対する満足度について、平成21年度は7.3%であったのに対し、平成27年度は27.4%となっており、大幅に満足度が上昇していますが、効率的に進めているということでしょうか。

ご意見がないようですので、施策70については終了とします。

## 3 その他

### (1) 今後の対応について

荒木部会長：それでは、現在所管課で作業している市民意識調査結果を反映させた施策内容修正シートについて、もう一度部会を開催して確認するのか、もしくは書面で意見を提出するのか、どちらかを決めたいと思います。

板垣委員：可能であれば、部会を開催したほうが良いと思います。

鷹委員：次回会議の11月はいかがでしょうか。

荒木部会長：今回は全体会になりますので、9月頃を開催することは可能でしょうか。事務局、いかがでしょうか。

事務局：部会を開催するとなると、スケジュール等を確認する必要がありますので、この場

で日程を決めることはできません。

荒木部会長： 部会委員のスケジュールもありますので、この場で決めていただきたいのですが。

鷹 委 員： 対応については、部会長にお任せいたします。

荒木部会長： 今、日程調整をするのが一番早いと思います。

事 務 局： 資料4「市民意識調査の結果を使用している施策等一覧」に掲載している施策は計13施策ありますが、その中には施策内容修正シートの指標欄に最新の市民意識調査結果を入れるだけの施策もございます。事務局としては、施策内容修正シートをお送りして、ご意見を事務局まで提出していただくという形で対応させていただきたいのですが、いかがでしょうか。

鷹 委 員： 市民意識調査の結果によっては目標値を見直す必要も出てきますが、それは施策内容修正シートに反映されるのでしょうか。

事 務 局： 目標値も見直したものが出てくると思います。

鷹 委 員： 目標値の設定は所管課任せとなるのでしょうか。

事 務 局： はい、そのとおりです。

鷹 委 員： それでは、それを部会長にご確認いただければと思います。

荒木部会長： 事務局は文書で対応したいということです。その他にご意見はございますか。

花 輪 委 員： 本日の審議で終わりとなると不満が残りますので、とりあえず一度文書で送っていただき、意見が多いようなら臨時で部会を開催する、少なければ修正内容を了承したということでもいいのではないかと思います。

鷹 委 員： このまま終わってしまうのは腑に落ちないです。

荒木部会長： 部会としてはもう一度部会を開催してほしいという意見ですが、どうしても無理なようでしたら、所管課から提出された施策内容修正シートを各委員に送付し、出てきた意見をまとめてください。

宍 戸 委 員： 今回の意識調査結果では、施策によっては満足度もそれなりに出てるが、不満もそれなりの数値が出てるところがあります。例えば、施策32「多様な保育サービスの推進」では、重要度は高く、満足は20.9%とありますが、不満も17.0%あります。また、施策45「地域との連携による保健・医療体制の推進」では、不満が18.1%あります。そのような満足度がそれなりにあるが不満もある施策について、どのように記載していくのか、検討が必要だと思います。

荒木部会長： 宍戸委員の指摘のとおり、一番肝心なところは市民が不満に思っていることについて、どのように対策を講じるのかだと思いますので、検討し、所管課に対して書き方を周知していただきたいと思います。

野 宗 委 員： 資料について、分かりやすいように工夫していただきたいと思います。目標値変更の可能性もあるとのことですが、どこを変更したのか、また、何でその数字を変えたのかなど、見せ方を工夫していただきたいと思います。

事 務 局： 検討いたします。

荒木部会長： それでは、分かりやすい資料の提供をお願いします。資料3のような見え消しが一番分かりやすいと思います。

本日はいくつか課題がありましたが、会議は以上で終了としたいと思います。皆様ご協力ありがとうございました。

## ② 次回開催の日程

事務局： 次回第5回の会議は、11月16日（月）午後1時30分から、市役所議事堂3階 全員協議会室にて開催します。

なお、以前お示しした平成27年度和光市総合振興計画審議会年間スケジュールでは1月に第6回会議を予定しておりましたが、第6回会議は開催せずに11月の第5回会議を最終の会議とさせていただきます。12月に審議会を代表して、花輪会長と泉副会長に市長への答申をお願いする予定でございますのでよろしくお願いいたします。

## 4 閉会